

ハスモンヨトウ情報第2号

平成21年9月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

- (1) ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、吉良町では5月以降、平年並からやや少ない状況で、8月下旬現在かなり少ない状況となっています。一方、長久手町では8月中旬以降に平年よりやや多い誘殺数となっています(図1)。このほかの調査地点での誘殺数も、地域によってばらつきがあります。
- (2) 8月下旬のダイズ調査では、全体的には白変葉の数は平年並ですが、一部地域で幼虫の発生が多いほ場が見られました。気象予報によれば9月は気温が高いと予想されるので、9月中旬以降、中齢・老齢幼虫が目立ってくると思われます。
- (3) 8月下旬現在、キャベツほ場でのハスモンヨトウ幼虫の発生はやや少ない状況ですが、今後の気象条件によっては急増する場合がありますので、注意してください。

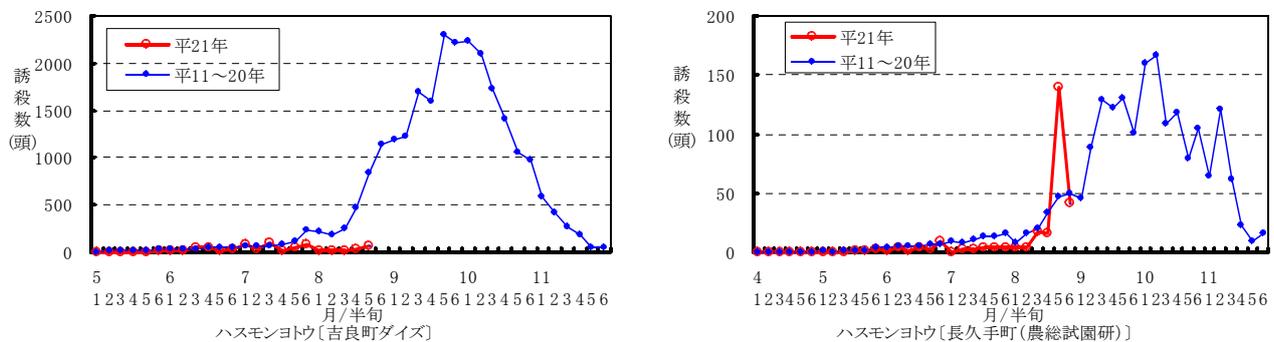


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

2 防除対策

- (1) ハスモンヨトウは残暑が厳しい年は多発する傾向があり、特に、降雨が少ない場合には大発生することがありますので、早めの防除を心がけましょう。中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にありますので、若齢幼虫期(分散前)に防除しましょう。
- (2) 有機りん剤、カーバメート剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低下している個体群が確認されていますので、防除薬剤の選定に当たっては注意してください(表1、2、3、4)。
- (3) ダイズほ場で白変葉が目立ち、幼虫の発生が多い場合は、直ちに防除しましょう。
- (4) イチゴでは、新芽の部分を好んで食入し、見つけにくいので、新芽の部分をひらいて寄生を確認しましょう。



図2 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫



図3 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫

表1 ダイズにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	薬剤の 系統 ^{注)}	希釈倍数(倍)	使用時期 収穫前日数	使用回数
ロムダンフロアブル	a	2,000	収穫14日前まで	3回以内
ラービフロアブル	b	750~1,000	収穫14日前まで	2回以内
ノーモルト乳剤	c	2,000	収穫14日前まで	2回以内
トレボンEW	d	1,000	収穫14日前まで	2回以内
トルネードフロアブル	e	2,000	収穫7日前まで	2回以内
マトリックフロアブル	a	2,000~3,000	収穫前日まで	3回以内

表2 キャベツにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	薬剤の 系統 ^{注)}	希釈倍数(倍)	使用時期 収穫前日数	使用回数
マッチ乳剤	c	3,000	収穫7日前まで	3回以内
アフーム乳剤	f	1,000~2,000	収穫7日前まで	3回以内
プレオフロアブル	g	1,000	収穫7日前まで	2回以内
トルネードフロアブル	e	2,000	収穫7日前まで	2回以内
コテツフロアブル	h	2,000	収穫3日前まで	2回以内

表3 イチゴにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	薬剤の 系統 ^{注)}	希釈倍数(倍)	使用時期 収穫前日数	使用回数
ラービフロアブル	b	1,000	定植30日後まで	3回以内
コテツフロアブル	h	2,000	収穫前日まで	2回以内
プレオフロアブル	g	1,000	収穫前日まで	4回以内
カスケード乳剤	c	4,000	収穫前日まで	3回以内
トルネードフロアブル	e	2,000	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	f	2,000	収穫前日まで	2回以内

表4 キクにおけるハスモンヨトウの主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	薬剤の 系統 ^{注)}	希釈倍数(倍)	使用時期 収穫前日数	使用回数
ロムダンフロアブル	a	1,000	発生初期	5回以内
オリオン水和剤40	b	1,000	発生初期	5回以内
マトリックフロアブル	a	2,000	発生初期	4回以内
ゼンターリ顆粒水和剤	i	1,000	発生初期	4回以内
クオークフロアブル	i	400	発生初期 但し 収穫前日まで	4回以内

注) 薬剤の系統 a=IGR剤(脱皮促進)、b=カーバメート系、c=IGR剤(脱皮阻害)、d=合成ピレスロイド系、e=オキサジアジン系、f=マクロライド系、g=プロペニルオキシフェニル系、h=呼吸阻害剤、i=BT剤